報告

第17回ファジィシステムシンポジウム報告 —— 科学技術と自然の調和を目指して ——

新宮 清志*

はじめに

第7期の日本ファジィ学会会長に廣田薫先生が就任され、装いも新たに動き始めた。

第5期の事業担当理事および事業委員会委員長として、新宮は数回に渡り各支部にファジィシステムシンポジウムの企画実施のお願いをしてきたが、このたびは自らシンポジウムを企画実施する立場に置かれた。第17回ファジィシステムシンポジウムは21世紀最初のシンポジウムとなるので、関東支部長(当時)の蔦敏和氏と如何なる内容にすべきか何度も話し合いを行ってきた。

会場は東京・市ヶ谷の日本大学本部、東京・神田駿河台の日本大学理工学部駿河台校舎、千葉・船橋の日本大学理工学部船橋校舎の3カ所について検討を加え、総合的に判断し最終的に船橋校舎で行うことに決定した。引き続き大会の委員会組織を如何にするか、これも蔦氏と綿密な打ち合わせ・熟慮の末、ピラミッド型の組織を作ることとなった。

基本方針は大会委員会で決定し、それに基づき各委員会が独自の会合等により詳細案を提出し、大会委員会に報告・審議のうえ決定することとなった。

非力な大会委員長を支え、シンポジウムを成功に導いて戴いた、蔦実行委員長、菅野直敏副委員長、横川壽彦組織委員長、高木友博プログラム委員長、荒井良徳副委員長、鬼沢武久企画委員長、高田哲也財務委員長はじめ全委員の皆様に深く感謝致します。大会委員会では、日本ファジィ学会事業委員会委員でシンポジウム実施マニュアルの作成担当として尽力をされた菅家正康氏に、マニュアルと活動内容の食い違いの指摘から議事録作成までして戴いた。

シンポジウム

シンポジウム前日の設営は14時から開始したが、予

想外に時間が掛かった。理由の一つは、初日の朝は混雑が予想されたので、受付の予行演習も一通り行うことにしたからである。時計を見ると21時30分であった。

初日は、関係者全員8時集合ということで準備にあたった。前日の予行演習が効を呈し順調に受け付け作業が行われた。ほっとすると、冷房が入っていないようなのでボイラー室等に連絡したところ担当者が不在という、予期せぬ出来事に肝を冷やした。幸い午前中はあまり温度が上がらなかったので出席者への迷惑は最小限に食い止められたようである。

シンポジウムの目玉の一つである招待講演は、第1日目の13時～14時20分に1326教室(階段室)に於いて、日本大学理工学部長小嶋勝衛先生によって「都市計画の新課題」と題して行われた。なお、司会是新宮が務めた。詳しくは別途次号に小嶋先生ご本人に報告して戴く予定であるので、そちらを参照戴きたい。

本シンポジウムの目玉である21世紀企画記念行事のパネルディスカッション「21世紀に於ける『知』のシステムのあり方」が第2日目の14時30分～17時30分に招待講演と同一の会場で行われた。本企画は、企画委員長鬼沢先生と明治大学の向殿政男先生にご尽力戴いた。パネラーは以下のように、そうそうたる顔ぶれである。

写真1 パネルディスカッション

Kiyoshi SHINGU

* 日本大学理工学部海洋建築工学科

日本大学大学院理工学研究科情報科学専攻

第17回ファジィシステムシンポジウム大会委員長

甘利俊一先生(理化学研究所):「21世紀の脳科学—脳型情報処理と数学理論—」

大須賀節雄先生(早稲田大学):「情報技術の新しいタクソノミーに向けて」

菅野道夫先生(理化学研究所):「21世紀における『知』のシステムのあり方に寄せて」

合原一幸先生(東京大学):「複雑カオス系と知」

野口正一先生(東北大学名誉教授):「次世代高次コミュニケーション」

司会進行は向殿先生によって快活に行われた。このパネルディスカッションだけのために出席された方も何人もおられ(参加費無料)、非常に盛況であった。なお、別途詳細な報告が次号に掲載される予定であるので参照戴きたい。

なお、参加者数等は下記の通りである。

シンポジウム参加者数:361名

懇親会参加者数:123名

論文数:250編

懇親会

懇親会は、第2日目の18時~19時30分まで張弦梁構造の屋根を持つファラディホール2階で開催された。例年懇親会は、いつの間にか始まり流れ解散というのが常であったので、この流れを変えたいと考えていた。そこでビールの栓抜きはそばに置かないことにしていた。しかし、開会の宣言前にどこからともなくビールの栓を抜く音が聞こえ完全には意図したことがかなわなかったが、いつもとは様子が違うことは伝わったようである。懇親会開催時に何方からか言われたことであるが、ファジィシステムシンポジウムの懇親会会場に式次第が掲示してあるのも前代未聞とのことであった。途中、日本大学リズムソサエティーによる生演奏を行った。学生諸君の熱が入った余り、多少音量が大

写真2 懇親会風景

きかったかも知れないがなかなかの評判であった。

委員会組織

本大会委員会の組織を以下に記し、長期間尽力された委員の方々に改めて謝意を表す次第である(敬称略)。

大会委員会

委員長 新宮清志、副委員長 蔦 敏和、山下 元
委 員 鬼沢武久、高木友博、高田哲也、横川壽彦

実行委員会

委員長 蔦 敏和、副委員長 菅野直敏
委 員 石川芳男、稲井田次郎、入江寿弘、田中一男、野本弘平、三浦 光、吉田洋明

組織委員会

委員長 横川壽彦、副委員長 谷 哲次
委 員 橋本智己、藤本泰成

プログラム委員会

委員長 高木友博、副委員長 荒井良徳
委 員 愛須英之、荒川 薫、菅家正康、菊池浩明、小林一郎、酒本晋太郎、林田和人、室伏俊明、山口 亨

企画委員会

委員長 鬼沢武久、副委員長 山田登志郎
委 員 岩田 満、菊池浩明、櫻井茂明

財務委員会

委員長 高田哲也、副委員長 涌井文雄
委 員 佐藤美佳、野崎 賢

写真3 会場入り口付近にて
(廣田会長・新宮・蔦実行委員長)

謝辞

最後に、第17回ファジィシステムシンポジウムを開催するにあたって多くの関係機関の協力を得た。ここに感謝の意を表わす次第である。

(株)オオヤブコーポレーション、オムロン(株)、共栄技販(株)、(株)京三製作所、(株)シマノ、大京洋書(株)、(株)大成出版社、ダイダン(株)、(株)七尾商会、日本アビオニクス(株)、日本計装システム(株)、(株)日立製作所、(株)ホームプ

ラン、マイコン計測工業(株)、(株)明電舎。

[問い合わせ先]

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1

日本大学理工学部海洋建築工学科

日本大学大学院理工学研究科情報科学専攻

新宮 清志

TEL & FAX : 047-469-5426

E-mail : kshingu@shinguu2.cs.cst.nihon-u.ac.jp